

6.2 関西自治会代表者会議を勝ちとり

6.15 全都全関西 自治会共同行動を 安保破棄

非武装中立の巨大な斗いの一歩とせよ!

—すべての組織は、6.15を準備せよ!—

6・15闘争を闘う立場!!

存在する全ての組織間の意見の相異は保留し、行動の統一を勝ちとっていくという主旨で提起された「五知識人アピール」は、全国民から支持され、既に、三百団体がこの準備を始めている。

ベトナム反戦の闘い、米軍による北爆を完全に停止させ、米軍の完全撤退を勝ちとる現実的な可能性の存在するなかで、今ほど要請されている時はない。6・15闘争は、まさにこうした国際的な反戦平和の任務にこたえるものであることはいふまでもない。更に、私達は、この6・15の闘いをベトナム反戦・日本の侵略加担反対のみの闘いとするのではなく、日本自身の戦争政策に反対する闘いとしてくまの必要がある。統一して闘おう!!

「全ての組織問題を保留して闘おう」という主旨にもかわらず、日本共産党、民青などの人たちは、「日本共産党から追いつけられた新日本文学会その他の人達が参加している」からという理由で、6・15闘争をボイコットし、6・2集会を提起している。にもかかわらず、全国の平和諸団体は6・15に向けて着々と準備を整えている。私達革新グループ会議は、この6・15の闘争を支持すると同時に、この闘いのなかで分散している学生を運動の統一へと勝ちとっていくため

なぜならば、二年後に控えた「70年安保」改定期に向い、エンター・プライズ寄港、沖縄の核付き返還構想、国防教育、マスコミ・教育の政府統制などの反動諸政策を「安保」の具体的内容として強行している。

私達が「70年安保」を闘おうとするならば、「70年」になったら「安保」を闘うのではなくして、今、具体的に向けられている攻撃に今からこたえていかなければならない。そうして私達は、闘争を安保条約放棄という「抵抗的」なものにとどめるだけでなく、積極的に私達の非武装中立の70年代を勝ちとるものとして闘おう!

に努力することを宣言する。

とりわけ学生戦線においては、昨年から着実に前進してきた自治会共闘を更に発展させ、自治会共闘を「現地」のみに歪曲した闘争ではなく、全国各地の学園を中心とした闘争として展開しなければならぬ。

6・15闘争を東京・大阪を中心とした自治会共同闘争を成功させるため、6月2日関西自治会代表者会議を成功させよう!そして、総評一万人労働者と共に、60年安保以降禁止されている御堂筋大デモンストレーションを闘おう!